

国語科学習指導案

令和2年11月13日(金) 5校時
第2学年1組 児童数32名
授業者 山縣 優貴

単元名 おもちゃランド「おもちゃ作りブック」
おもちゃの作り方をせつめいしよう

本単元で育成する資質・能力 主体性 コミュニケーション能力 メタ認知

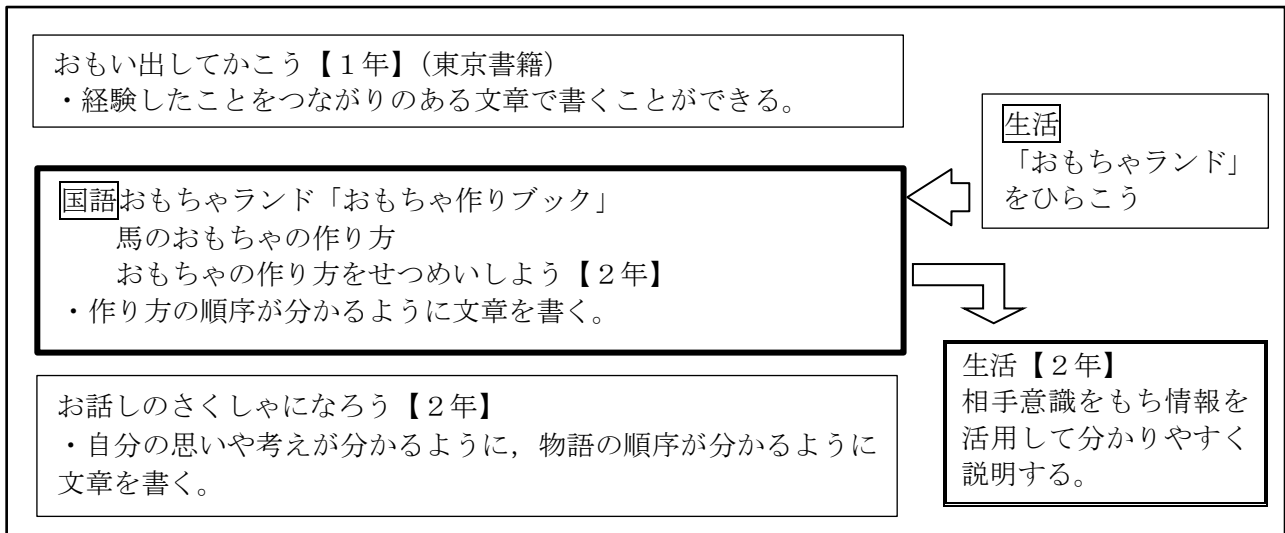
1 単元について

<p>【単元観】 本単元は、小学校学習指導要領の国語科第1学年及び第2学年の〔知識及び技能〕(2)情報の扱い方の指導事項「ア 共通, 相違, 事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。」「思考力, 判断力, 表現力等」「B 書くこと」(1)「ウ 語と語や文と文との続き方に注意しながら, 内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。」を受けて設定したものである。本単元では「B 書くこと」の言語活動例「ア 身近なことや経験したことを報告したり, 観察したことを記録したりするなど, 聞き取ったことを書く活動。」を具現化した「一年生にプレゼントする『おもちゃブック』を書く。」という言語活動を位置づける。相手意識をもたせることで, 分かりやすく手順を示して文章を書き表す力を身に付けることができる考える。</p>	<p>【児童観】 本学級の児童は, 第1学年「おもい出してかこう」(東京書籍)の学習で, 経験した出来事を思い出し, 時間的な順序に沿ってつながりのある文章を書く経験をしている。また, 順序を表す言葉として, 「まず」「つぎに」「そして」「それから」「さいごに」などの接続語を学んでいる。しかし, 時系列に沿って文章を書くことはできていても, 接続語を適切に使っている児童は少ない。接続語を使う良さに気付かせ, 定着を図る必要がある。</p>
<p>【指導観】 本単元では, 一年生に「おもちゃ作りブック」をプレゼントするために, おもちゃ作りの説明する文書を書くことを通して, 事柄の順序に沿って, 語と語や文と文のつながりに注意し, 文章を書く力を育成する。また, 読み手を意識して, 相手に分かりやすく伝えるための方法や言葉を認識させる。そのために, 次の点に留意する。 1点目は, 教材文「馬のおもちゃの作り方」から, 文章が「前書き」, 「ざいりょうとどうぐ」, 「作り方」, 「楽しみ方」の構成に分かれていることを確認させる。さらに「作り方」を説明する際には, 「まず」, 「つぎに」, 「それから」, 「さいごに」など, 作り方の順序を表す言葉が使われているよさに気付かせる。2点目は, 文章に合わせて写真があることで, 作り方が分かりやすくなっていることを発見させる。その際, 「作り言葉」として「～をきる」, 「～をつける」, 「～をとめる」など, 具体的な言葉をたくさん知ることによって, 児童が自分なりに詳しく文章を書けるように指導する。3点目は, 児童同士で交流する場合, どのような言葉が使われていたらいいかを共通理解させ, その視点に沿って友達の良いところがすぐに見つけられるようにする。</p>	

2 単元の評価規準

【資質・能力】 コミュニケーション能力		
・おもちゃの作り方について, 1年生がおもちゃの作り方を理解できるように, 説明書の構成を考え, 分かりやすく文章を書いている。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・共通, 相違, 事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。 【知識及び技能(2)ア】	・「書くこと」において, 語と語や文と文との続き方に注意しながら, 内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。 【思考力, 判断力, 表現力等 B(1)ウ】 ・「読むこと」において, 事柄の順序などを考えながら, 内容の大体を捉えている。 【思考力, 判断力, 表現力等 C(1)ア】	・学習の見通しをもって, 進んで学習課題に取り組み, 読み手を意識しておもちゃの作り方の説明書を書こうとしている。

3 単元関係図



4 指導と評価の計画 (全 14 時間)

次	学習内容 (時数)	評 価			
		知・技	思・判・表	主体的態度	評価規準 (評価方法)
一	○「一年生に分かりやすいおもちゃブックを書こう」という単元のゴールを理解し、学習の見通しをもつ。(2)			○	・「おもちゃの作り方」の説明のしかたに関心を持ち、単元全体の学習の見通しをもって、学習に取り組もうとしている。【態】(ノート、行動観察)
二	○教材文を読み、説明の工夫を見つける。(3)	○	○		・順序が分かる言葉をもとに、馬のおもちゃの作り方の手順を捉えている。【知】(ノート、発言)
	○教材文で見つけた説明の工夫を紹介し合う。(1)		○		・説明の順序を考えて教材文を読み、文のまとまりを捉えながら説明の工夫を読み取っている。【思C】(ノート、発言)
三	○説明するおもちゃを確認し、必要な材料や道具を想起する。(1)	○	○		・語と語や文と文との続き方に注意しながら、説明する文章を書いている。【思B】(ワークシート)
	○「前書き」「材料と道具」「楽しみ方」を文章にまとめる。(1)	○	○		・内容のまとまりが分かるように、構成を考えながら文章を書いている。【思B】(ワークシート)
	○おもちゃの作り方の説明を第二次の学習を基に考える。(2) 【本時】		○		・文章を読み返し、分かりづらいところを書き直すなど、文章をよりよくしている。【思B】(ワークシート、行動観察)
	○選んだおもちゃを説明する文章を書く。 ○書いた文章の見直しをする。(3)		○		・友達と書いた説明を読み合い、感想を伝え合っている。【思B】(ワークシート、行動観察)
	○完成した説明文を基に「おもちゃブック」を作る。 ○「おもちゃブック」を読み合っ て感想を伝え合い、学習を振り返る。(1)			○	・学習したことをいかし、順序を意識して分かりやすい説明を書こうとしている。【態】(行動観察、ワークシート)

5 本時の展開

本時の目標 1年生におもちゃの作り方を分かりやすく説明する工夫を考え、説明書を書くことができる。		
学習活動	指導上の留意事項	評価規準 (評価方法)
1 「けん玉の作り方」を音読し、前時の学習を想起し、めあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 「けん玉の作り方」を読んで、文章の構成を想起させる。 今回の授業が「作り方」を説明する文章を書くことを確認する。 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> めあて 1年生に伝わる分かりやすい説明書を書くことができる。 </div>		
2 作り方を説明するために必要な工夫のポイントを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 「順序を表す言葉」や「作り言葉」「写真」に関する言葉に注目させる。 ポイントを確認するために、導入時に教師が作成したおもちゃの例文を2つ並べて比較させる。 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> 〈予想される児童の発言〉 <ul style="list-style-type: none"> 「作り方」を説明するときは「まず」「つぎに」などの「順序を表す言葉」が使われている。 写真に合わせて文章を書くとより分かりやすい。 「切る」や「貼る」などの「作り言葉」をつかうと1年生も困らない。 のりやテープをはる位置をくわしく書いてあげるといい。 </div>		
3 「まず」「つぎに」の順序を表す言葉を活用して、作り方の説明書の半分を完成する。	<ul style="list-style-type: none"> 生活科の授業でメモをしたワークシートを参考に、「作り言葉」を活用して文章を書かせる。 児童のおもちゃ作成時に撮った写真に合わせて、説明書を書かせる。 今まで集めた言葉を参考にするように助言する。 早く終わった児童には、同じ説明でも違う「作り言葉」を使って説明書を書くように促す。 〈児童の状況に応じた指導〉 <ul style="list-style-type: none"> 説明書を書くことが難しい児童には、「作り言葉」を記入して説明できるヒントカードを用意する。 	【思・判・表】 語と語や文と文との続き方に注意しながら、説明する文章を書いている。 【思B】 (ワークシート) A作る順序に沿って作り言葉を活用したり、写真に合った説明文を書くことができている。 B作る順序に沿って、説明文を書くことができている。
4 グループで文章を確認し合う。	<ul style="list-style-type: none"> グループで「まず」と「つぎに」に書いた文章を読み合い、様々な書き表し方があることに気付かせる。 1年生に分かりやすく伝えるために様子に合わせた「作り言葉」を使うとよいことをおさえる。 	
5 本時のまとめをする。		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> まとめ 分かりやすく伝えるためには「順序を表す言葉」や様子に合わせた「作り言葉」を使って、説明書を書くといい。 </div>		

6 学習の振り返りをし、次時の確認をする。

・次時は後半をすることを確認する。

6 板書計画

おもちゃの作り方をせつめいしよう

④ 一年生に分かりやすく伝わるようなせつめい書を書くことができる。

例文①

例文②

じゅんじよをあらわすことば

「まず」「つぎに」「そして」「さいごに」

作り方ことば

「〜で切る」「〜をはる」「〜をとめる」

※しゃしんと合わせてくわしく書く

よかったところ

- ・はさみで上を切ると「作り方ことば」といっしよに切る場しよも書いていた。
- ・どれぐらいの長さを切るかくわしく書いていた。

④ 分かりやすく伝えるためには「順序を表す言葉」や「作り方言葉」を使って、説明文を書くといい。